

【一般演題1】 第4席

「夢分流鍼術について」

京都 横山 浩之

夢分流は杉山流とともに鍼術のみを以て一家を成し、幕末に至る二百余年に渡って存続したこと、江戸期を代表する鍼術流派として広く知られている。しかし、その特異な施鍼術式と断片的な逸話に偏して言及されることが多い。そのため流派の形成過程に関する事情は常に混乱したままなおざりにされ、かつ禪など宗教的傾向を帯びた伝承が先行し、曖昧さに一層拍車かける結果となっているきらいがある。

よって本演題では『鍼道秘訣集』を通して夢分流鍼術の治療体系を考察し全体像を考察を把握することを第一の目的とする。さらに、すでに失した御園家の著作群の書名からその内容を想定し、そこから御園家の医学的展開をとらえ、その中に『鍼道秘訣集』を位置づけなおし、さらに駿河流・意斎流などの周辺諸家との差異を可能な限り明瞭化して、夢分流鍼術に再評価を与えることを第二の目的とする。